

NOMA テーマ別研修 モデルプログラム例)

研修モデル プログラム名	実践コンプライアンス・危機管理モデルプログラム
研修のねらい (到達目標)	コンプライアンス・危機管理の実践的推進に関する理解と、求められる仕組み・手段の弱点克服の気づき。
研修期間	標準：1日
有効対象	全職種の方々
研修ポイント	<p>組織およびその役職員・従業員におけるいわゆる「不祥事」が報道されない日がないほど、企業ガバナンスの脆弱性が強く指摘されています。いまや企業においてコンプライアンスを如何に浸透させるかにより、ガバナンスの有効性・確実性が評価されます。</p> <p>「内部統制を整備してあるのに、コンプライアンス研修を定期的実施しているのに…。不正・不祥事がまた発生した!!」残念ながらよく聞くクライシスフレーズです。</p> <p>まさか当社に、まさか当部(課)に限って、まさかあの人に限って、「まさか」を「またか」にしない為に、「しない・させない・許さない」の3ない企業体質構築と経営層、管理職、一般従業員各階層のコンプライアンス感性をより高め、危機管理意識醸成と気づきを目的とします。</p> <p>また、『模擬演習』体験を通し事後対応の重要性・大切さの気づきを促します。</p>
モデルプログラム事例	
1 日 目	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 自己でわかる意識度!! 「自己点検、危機管理・コンプライアンス度」【個人ワークと自己評価】 2. なぜ、コンプライアンスが定着しないか 3. 「不正・不祥事はなぜ起こったか」・・まさかをまたかにしない為に【事例研究・個人ワーク含む】 4. 思い出そう「合理的保証」の意味とは 5. コミュニケーションで不正は防止できる!! 6. クライシスマネジメントの実践〈コンプライアンスで押さえる危機管理の急所〉 〈対策本部稼働とメディア対応の急所〉・・・【個人ワーク含む】 (1) 事後対応と説明責任の正しい対処法 ○想定クライシスシナリオの策定方法 ○対策チームに必要な人・もの・金・情報は何か (2) 会見場を第二の事故現場としない為に ○クライシスコミュニケーションの急所は何か ○記者会見で言っていないこと、悪いこと事例 7. 確実なクライシス対応ができますか?・・・【机上訓練の体験・グループワーク】 8. 模擬演習の振り返りと気づき 	

上記はあくまでモデルプログラムです。

実施の内容は可能な内容であれば、ご要望に応じてカスタマイズができます。

お気軽にご相談ください。

お問い合わせ先

一般社団法人日本経営協会 東京本部

経営開発グループ

TEL 03-3403-1716

FAX 03-3403-8417

E-Mail tiso@noma.or.jp